

PETRONAS SYNTIUM TEAM

PETRONAS SYNTIUM TEAM REPORT

スーパー耐久シリーズ2008
もてぎスーパー耐久オーバルバトル

■予選:11月16日 天候:雨

土曜の決勝レース後に降り出した雨は夜遅くまで続いたが、一度は止んで曇天模様の日曜の朝を迎えた。だが、午前8時からのオーバルコース走行を前にまたも雨が降り出した。気温も低く、薄霧も出始めた不安定なコンディションに、PETRONAS SYNTIUMチームでは45分間の練習走行をキャンセル。ハイリスクを敢えて負わず、予選走行に集中することにした。

今回のイベント開催にあたり、大会事務局では約2.4kmのオーバルコースに3ヶ所のシケインを設置。だが雨脚が強くなったことから、さらに1ヶ所を追加。合計4ヶ所にパイロンを使ったシケインを設け、スピードダウンによる安全性確保を強化した。

午後10時、予定より1時間遅れで予選がスタート。PETRONAS SYNTIUMチームは、28号車に谷口信輝、50号車にはF・ハイルマンが乗り込んでタイムアタックを開始し、路面コンディションに合わせてうまくタイムを削り取っていった。インターバルを挟み、今度は28号車が片岡龍也、50号車は柳田真孝がアタックを担当。わずか10分という短い時間の中、確実にタイムを詰めていった。通常のレース同様、2選手のタイムを合算して決定するグリッドで、ポールポジションを獲得したのは28号車。2番手には50号車が続き、またもPETRONAS SYNTIUM チームがフロントローを独占して今シーズン最後のレースを迎えることとなった。

一方、僅か5分間のみの出走となったCドライバー予選には、ジョハン・アズミと吉田広樹が出走。両者もレインタイヤでのタイムアタックを無事に終え、オーバルレース出走へのスタンバイを行った。

■決勝:11月16日 天候:小雨(第1ヒート)/曇り(第2ヒート)

雨はほとんど降っていないものの、朝からの雨がコース上に残っていたため、各車両の足元はレインタイヤ。コースコーションを重ね、4周目にグリーンフラッグが降られた。依然として不安定な路面コンディションではあったが、ポールポジションスタートを切った28号車の谷口は手馴れたステアリングさばきで快走し、ハイルマンも遜色ないタイムで追隨する。

16周目、そのハイルマンにチャンスが訪れる。出走した25台のクルマの隊列が次第にバラけ出し、ラップダウン車両が谷口の行く手を阻んだ際、その後方にいたハイルマンが行く手を確保。谷口を捕らえ、ほぼ同体でメインストレートを通り抜けていく。勢いにのったハイルマンはなおも追撃の手を緩めることなく、そのまま谷口からリードを奪い、24周目終了時には約10秒もの差を築き上げた。

2番手となった28号車は25周を終えてピットイン。タイヤ交換とともにドライバーもアズミへとスイッチ。そして50号車は32周終了でピットイン。新たに柳田がコースへ向かった。足元はすでにレインタイヤからスリックへと交換されており、2台は果敢にそしてときにはタイミングを見計らってバックマーカーを丁寧に処理。中でも柳田はレースキャリアを活かした落ち着いたレース運びで、2位以下に大量のマージンを構築。第1ヒートをトップでフィニッシュした。

また、前日のレースでは僅か5周の走行に終わったアズミは、オーバルのエキシビションレースながら25周を難なく走破。しかしながらバックマーカーの処理など、慣れない作業も多く、3番手でチェッカーを受けることとなった。

第1ヒート終了から約1時間後、第2ヒートがスタート。ここでの50周終了時点の順位がオーバルレースの最終順位となる。インターバルの間に日が差し込み、天候が大幅に回復したと思われたもてぎの上空だったが、再び薄雲が顔を見せ、風が雨をパラパラと運んできた。

幸い、コースはすでにドライとなっていたため、全車迷わずスリックタイヤで出走を開始。フォーメーションでの走行を7周続け、レースが始まった。トップ・50号車のドライバーは再びハイルマン。緩急をつけながら、オーバルコースを周回するハイルマンは、自信あふれる走りでもたも後続に大差をつけていった。

PETRONAS SYNTIUM TEAM

一方、3番手スタートの28号車はアズミがスタート。スリックタイヤでの出走を前に天候の行方が見えないとナーバスな表情を見せていたが、一旦走り出すとコンスタントにラップタイムを刻みながら順調に走行。2番手にいた他車がアクシデントで後退したのを機に2位へ浮上し、PETRONAS SYNTIUMチームは序盤からワン・ツー態勢を作り上げた。

ルーティンワークのピットインは、50号車が82周終了時点、そして28号車はその翌周に実施。50号車は吉田が、そして28号車には片岡が乗り込み、コースへと復帰した。この時点で2台の間にはすでに1周という大差がついていたが、両車ともに攻めの姿勢で自己ベストタイムを次々に更新。最後の最後まで力強い走りを披露した50号車がまずトップでチェッカーを受け、28号車が2位でフィニッシュ。PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPEの2台は今シーズン最後の戦いを有終の美で飾ることとなった。

●鈴木哲雄監督

オーバルのレースでは今シーズンのレースでドライブする機会が少なかった吉田やアズミを中心にドライバー編成を行いました。実戦を走ることで彼らにもたくさんの経験を積んで欲しいと思いました。今シーズン最後のレースを無事に終えることが良かったと思います。最後までご声援ありがとうございました。

●No.50 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE

柳田真孝

今日の勝利は、ファリークと吉田、そして僕の3人の総合力で勝ち取ることができました。スーパー耐久レースとして初めて行われたオーバルコースでの一戦で勝利できたのはいい記念になりました。今年は若手育成という面で彼らに携わる機会も多かったのですが、僕自身も勉強することが多く、いいチャンスだったと思います。今週末は最終戦での優勝、そしてオーバルレースでの勝利と、その成果を結果に残すことができとてもうれしいです。

ファリーク・ハイルマン

シーズン2年目の今年も、このスーパー耐久から学ぶことがとてもたくさんありました。初経験のオーバルレースでしたが、楽しかったし、とても充実した内容でした。今年もチームから、そしてファンから多くのサポートしていただいたことに、改めて感謝しています。

吉田広樹

オーバルレースでも最後のステイントで乗って、優勝できたのでとてもうれしいです。チームとして両レースでワン・ツーフィニッシュを飾れて良かったと思います。ただ、結果は優勝ですが、僕自身まだまだ見直すところもあるレース内容でした。さらに課題が見つかったので、これからも頑張って勉強を重ねていきたいと思っています。

●No.28 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE

谷口信輝

タイヤを早い時点で傷めてしまい、アンダーステアの状態でも周回を重ねていたのですが、バックマーカーにコースを塞がれたとき、ファリークに先にいられてしまいました。ただ、今日はバトルをするよりも、ジョハンに多く乗ってもらうことが目的でした。彼自身もきちんと最後までやり遂げてくれたので良かったと思います。来シーズンは若手ドライバーをもっと育てるような仕事が増えると思いますが、そういう目的を持ちながらも、今年の使命であったタイトル獲得を後押ししてくれた方々に改めて御礼を言いたいと思います。

片岡龍也

今日は天候が不安定だったので、どのくらいジョハンに乗ってもらうのがいいのか迷いました。でも、昨日のレースでもあまり乗れなかったのが、最終的に頑張ってもらったわけですが、その中でジョハンはきちんといい仕事をしてくれたと思います。今週末は両レースで2位に終わってしまいましたが、チームと一緒にいい仕事はできたと思います。色んな意味で満足できた週末となりました。

ジョハン・アズミ

朝、雨が降っていたので、このまま雨のレースになると思っていました。予選もたった5分しかなくてとてもタフでした。決勝は雨が止んでほっとしていたところにまた雨が落ち始め、さらにスタートドライバーもしなければいけないので、スリックタイヤで雨のレースを戦うことなんて想像したくありませんでした。最終的には本格的な雨にならず、オーバルレースを堪能できて良かったです。